

第3回山内小児童いじめ防止委員会の報告

日頃より本校の教育活動に多大なるご支援ご協力をいただきありがとうございます。

2月25日（月）に、青葉警察署の方々、青葉区役所の方、地域の皆様、主任児童委員、PTA、3年生以上のクラス代表、教職員が本校体育館に集まり、「第3回山内小児童いじめ防止委員会」を行いました。

1年間のまとめとなる今回は、「今年度の振り返り」と「次年度に向けて」を話し合いの議題として行いました。第3回の話し合いについてご報告させていただきます。

【テーマ】

「あったかハート」でいじめ0（ゼロ）～あったかハート言葉を増やそう～

【参加者】

3年生以上クラス代表児童2名

青葉警察署 青葉区役所 地域の皆様 主任児童委員 PTA 教職員

【内容】

「今年度の振り返り」「次年度に向けて」

【報告】

各クラスで取り組んでいる「あったかハート言葉」の取組や、年度当初に立てためあての振り返り、次年度に向けてできそうな取組など、様々な意見を出し合いました。



各グループの話し合いから

- ・「あったかハート言葉」を意識することで、「ありがとう」「いいね」など優しい声かけが増えた。
→ 居心地の良いクラスになった。→ クラスが明るくなった。
- ・人をほめることが上手になった。
- ・良い言葉と悪い言葉を判断して使えるようになった。
- ・相手に声をかける時、親しい人との線引きが大切である。
→ 本人同士が良くても、周りは不快に感じる。
- ・「いじり」や「笑い」は人によって受け取り方が違うことを意識して声をかけて欲しい。
- ・失敗しても、取り組もうとすることが大切である。
→ 「あったかハート言葉」が広がる。
- ・わかっているけど使ってしまう言葉への意識をより注意していきたい。
- ・「気になる言葉」が少なくなったものの、すべて無くなったわけではない。
- ・相手によって態度を変える（声のかけ方を変える）というようなことが無いようにしていきたい。
→ 次年度は、言葉と行動の両方に注意を払っていきたい。



〈めあて〉

- 意識できている → クラス全体の中で
- まだ、人によって態度かわる
- 今で志の域あるので今後
- できるものあれば、できるという意見も増える

〈取り組みについて〉

- 取り組みの意識の域あり
- 人によって注意、仕度違の域あり
- 10,11月にはたくさん言葉多
- まだなくない
- カードあることで、あなたが言葉を意識する域できた

- 線引を意識(親しい言葉)
- カードあることでクラスで感じられる
- 本人たちはよても同じく嫌な気持ち
- ふんわり言葉の中身に込めると具体的に → みんな意識してる
- ふんわりな心でいかに → 言葉変わる
- ふんわり言葉、自然と身につくように
- 最初の意識 → 自然と

A

あまがハート言葉
 取組 やい声のかけ方
 2つの言葉 → やい言葉
 いやな言葉 添物 あまがハート言葉
 ばあ 意識 クラス全体
 あは (めあての振返り) 明らか
 良い言葉 悪い言葉の判断
 できるように
 良い言葉とわかる自分
 悪い言葉とわかる自分
 「意味のない」と言われるとアウターに気配
 大人になってもやい声かけたい

あまがハート言葉

人とお話しする言葉が多くなった
 うんうん言ってる

活動していく中で
 いつもの心にかけて
 自然と言葉に気が
 気にかけておくのが
 大切な
 相手を
 大切に

やさしい言葉に変わった
 ありがとうが増えた

- 意識することによってよくなった
- 仲良しにならずにみんなと関われるようになった
- 友だちと仲良くなった
- クラスの雰囲気良くなった
- 意識できたりと、出来ることはできなくなった
- 男子女子での言ひ方変わった

あまがハートの取組があることで
 おだやかな心で生活できる
 家庭も良くなる
 親身からの言葉が子どもたちに
 影響している
 意識していくことで大事

失敗しな方も努力しなから
 取組していくことが大切
 → その姿を見て広げていく
 めあてを自分事として受けとめて
 振り返っていることが伝わってくる
 〈来年度〉 ・始めのうちは行動の
 一日一つ 自分の目標を立てる
 プラスの行動に目を向けていく

成果 ほめるのがじょうずになった、

- 言われてうれしい言葉 あたかハートな言葉が増えた。
- 悪口がへった。
- 何気ないあたか言葉がうれしいことに気が付いた。
- 考えるから、言葉をかけられるようになった。→ **判断 区別**

課題

- やってはいけないことをやってしまう (ちっかい・失敗を笑う等)



来年度に向けて...

- 言葉だけでなく行動もふり返る
- あたか行動を集める

参加された方々から

- 「あつたかハート言葉」の取組を通して、一人ひとりの言動が学校生活において少しでも良くなってくれたらうれしい。
- 児童自身が話す言葉に責任をもって活動できていたように思う。大人に成長するに向けて、言葉づかいを大切にできるよう、今年学んだことを今後役に立てて欲しい。
- 「児童いじめ防止委員会の場でなくても、言葉づかいを今後意識していきたい。」という言葉聞いて、うれしく思った。
- めあてを「自分ごと」として受け止め、しっかりと向き合って欲しい。その上で、クラス→家庭→地域と、今年度の取組を広げてくれたらうれしい。
- 大人として、児童の手本となる行動を示していきたい。



学校長から

• いじめ防止委員会の児童を中心に、1年間とても素晴らしい活動ができた。個人やクラスでいじめをなくそうと意識した取組が学校全体や家庭で出ていることをうれしく思う。ただし、まだ課題もあるので、もう少しがんばって欲しい。「あつたかハート言葉」を意識しないで当たり前に見えるようになるために、今後も意識して生活して欲しい。次年度は是非、「言葉」から「行動」に移れるように考えて取組を進めて欲しい。



児童の感想

・この活動を通して、みんなが「気になる言葉」が無くなるよう意識できるようになってきたと思う。また、いじめについて深く考えたり、いじめを無くしていこうと意識したりする人も増えてきたと思う。いじめを無くしていくためには、相手の気持ちを考えることがとても大切だと改めて理解できた。これからも山内小のみんながいじめをなくそうという活動を大切に引き継いでいきたいと思う。



・いじめがすべて無くなったわけではないが、この取組が確実にいじめをなくすことにつながっていると思う。今後は「言葉」だけでなく「行動」でも、いじめを減らしていけたら良いと思う。私は、この経験を中学でも生かしていきたいと思った。取組をすることで、課題が明確になり、行動に移しやすい。その為、いじめが減りやすくなると思う。あたたかい言葉を掛け合うことで、自分自身も相手も気持ちよく過ごすことができると思う。

・半年前と比べてずい分と「気になる言葉」が減ったと感じる。しかし、まだ各クラスに「気になる言葉」が残っているので、今後も意識して生活をしていきたい。

・来年度の取組でも、今年度の「あたたかハート言葉」を意識していきたい。自分からクラスの人に注意し、自分自身も心がけていきたい。

・来年は高学年として「あたたかハート言葉」をさらに意識していきたい。

参加された方々から

・子ども達が普段の学校生活の中で、どう感じているのか、考えているのかを知るいい機会でした。コミュニケーションの取り方についてクラスで話し合ったり、学年をこえて取組を発表し合ったりすることは、いじめ防止委員会のような取組が無ければ、なかなか無いことだと思う。この取組が確実に山内小の皆さんに浸透して、クラスから学校全体へ、さらに地域全体に「あたたかハート」が行きわたって欲しいと思う。家庭でも引き続き、「幸せ言葉」を使う習慣を身に付けていこうと思う。(PTA)

・次年度は、「言葉」と併せて「行動」についても取り組んで欲しい。もし友達との関わりの中で深く傷付くような出来事があったら、一人で悩まずに家族や先生、信頼できる大人に話して欲しいと思う。いつでも話せる環境を大人が整えてあげることも大切だと感じた。児童一人ひとりが自分も、周りの友達も大切な存在であるということを忘れずに欲しい。楽しい学校生活を送れるよう、保護者として、まずは家庭から「あたたかハート言葉・行動」を意識していきたいと思う。(PTA)

・取組で上手くいかなかったところがきちんと意識されているところが良かった。継続して、「気になる言葉」を無くせるように取り組んで欲しい。(地域の方)

